

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	安芸郡府中町立府中中央小学校		
学校長氏名	埜田 武浩	栄養教諭氏名	山根 直美
職員数	40名	児童・生徒数	620名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

【教科等における食に関する指導について】

○ 教科の中で食育の授業を行う場合、食育のねらいと共に各教科のねらいを達成できるような指導の工夫が必要である。また、栄養教諭が専門性を活かせる関わり方についても研修していく必要がある。本校では、担任と連携を図りながら新たな教材の開発に取り組んでいる。

【食事マナーの定着に向けた取組について】

- 食事マナーの定着に向け、全校で取組を進めている。
- 給食委員会が中心となって取組を進めることで、学校全体の意識が高まっている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

<p>食事マナーの定着を図る（食事マナーウィークの指導内容をより定着させる）</p> <p>食事のあいさつをすることができる児童の割合 85%以上</p> <p>正しい姿勢で食事をするすることができる児童の割合 75%以上</p> <p>正しい箸の持ち方に取り組むことができる児童の割合 70%以上</p> <p>食事時の食器の置き方がわかる児童の割合 75%以上</p> <p>給食の残食率 1%以下</p>

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 教科等における食に関する指導の充実に向けた取組について

食に関する指導年間計画に基づき、学級担任と栄養教諭の TT による指導を実施



道徳「おもちゃリサイクル」では、食べ物为例にとりながら、物を大切にすることを育てることをねらいとした。



国語科「海のいのち」では、登場人物の生き方を実際の漁師さんの行き方から考えさせ、理解を深めた。



教育センターの講座の会場校や比治山大学から学生の学校訪問など、授業を公開する機会が多くあり、そのことがよりよい授業づくりにつながり研修を深めることができた。

【取組 2】（テーマ） 食事マナーの定着に向けた取組について

食事マナーウィークの内容をより定着させるための取組

全校で課題が大きいと思われる、はしの持ち方にポイントを置き、毎月継続して指導を行う。



毎月行う「食事マナーウィーク」の期間中、給食委員会の児童が担当の教室を訪問し、曜日ごとのテーマに合わせた食事マナーの話をした。



児童からのアイデアで、「チャレンジ！おはし名人」のコーナーを1週間ずつ設け、意欲的におはしの持ち方の練習ができるようにした。大達人まで到達した児童には、児童朝会で表彰をした。



食事マナーウィーク期間中に、学級担任と栄養教諭との TT による「正しいおはしのもち方」の指導を行った。（校長も飛び入りで授業に参加。）

【取組3】(テーマ) 学校・家庭・地域との連携

- 食育参観日について
食に関する年間指導計画に沿って、各学年の目標に応じた内容の食育授業を参観日に全学年で行った。
- 食事マナーウィークについて
給食委員会の児童が給食時間に各教室を訪問し、食事マナーウィークのテーマにあわせた話をした。委員会の児童は、自分の話す内容をクラスごとに工夫することにより、自信をもって活動することができた。また、課題の見られる食事マナーについて(今年度も、はしの持ち方)は、朝会で委員会児童がクイズ等を取り入れた説明をした。さらに、はしの持ち方を自分からトレーニングできるよう「チャレンジ！おはし名人」コーナーを設けた。そのことにより、自分のはしの持ち方を振り返り、課題を見つけ意欲的に練習する児童が増えた。
- 学校行事と地域との連携について
地域に伝わる郷土料理「もぶり飯」についての学習や「おむすび体験学習」など「朝パッ君プラン推進事業」や「府中町公衆衛生推進協議会」と連携を図りながら取組を行った。



全国和食王選手会に出場した。参加した児童は、この機会を通じて家庭科や総合的な時間で学習した内容を深めたり、郷土料理のよさを再発見したりすることができた。



おむすび体験活動を行った。本校で取り組んでいる「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の取組内容を実践することができた。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ひろしま給食メニューを教材として教科等の授業に生かした。
- 今年度、本校児童が考えたレシピが特別賞に選ばれ、また朝ごはんメニューにもふさわしいことから、年度末に各家庭に配布する「はちの子朝ごはんレシピ集」で紹介した。
- 5年生の家庭科と関連付け、「ひろしま給食出前講座」の講師を招き、おいしのだしのとり方とごはんの炊き方のコツについて学習した。プロの技を教わることで、日本食のよさを再認識し、家庭科で学習したことを家庭で実践しようとする児童が増えた。また、この内容を「全国和食王選手権」での発表内容に生かした。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

- 教科等における食に関する指導について
・授業を公開する機会など研修の場面が多くあったため、教科に食育を取り入れるために教材研究の時間を多く取ることができた。そのことから、教職員の食育に対する意識が高まった。また、教科の中での食育の広がり可能性を感じることができた。
- 食事マナーについて
・今年度からスタートした「チャレンジ！おはし名人」の取組は、児童自らがおはしの持ち方を改善しようとする意欲を高めることにつながった。
・給食委員会の発表では、どのようにすれば望ましいマナーについて効果的に伝えることができるか、児童が主体的に考えて取り組むことができた。そのことが児童が達成感を持つことにもつながった。

～成果目標について～

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| ○食事のあいさつができる児童・・・100% | ○正しい姿勢で食事ができる児童・・・47% |
| ○正しいはしの持ち方に取組むことができる児童・・・84% | ○食器の置き方がわかる児童・・・95% |
| ○残さず食べることができる児童・・・99%(残食率 1.2%) | |

【課題】

- 教科等における食に関する指導について
・各学年で行った教科等における食に関する指導の内容を校内研修等により、教職員全体で理解を深め、全体の意識を更に高めていく必要がある。
- 食事マナーについて
・全体の意識の向上は見られるが、個々のマナーについて、個別に対応していく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- 教科等における食に関する指導について
・各学年で行った教科等における食に関する指導の内容を校内研修等により、教職員全体で理解を深める。
- 食事マナーについて
・年度当初に考えた成果指標を全体で確認し、保護者や児童を対象とした指導内容を再確認する。